

体験通して親子で触れ合い 体験工房森のくに「クラフト体験」

親子で料理を通じた食育体験やクラフト体験を行うイベントが、1月8日から10日の3日間、大迫町大迫の「体験工房森のくに」で開催されました。

最終日の10日は市内や北上市から30人の親子連れが参加。午後のクラフト体験では木製のマリオネット作りに挑戦しました。

兄弟で参加した藤原蒼彩君(8歳)と涼詩君(4歳)は「マリオネットを操るひもを結び付けるのが難しかった」と言いながらも、出来上がった作品を見て満足げな表情を浮かべていました。



一つ一つ確認しながら作業を進める親子

一票の重みを自覚 花北青雲高校生が投票体験

花北青雲高校で1月12日、同校3年生を対象とした選挙啓発授業が行われました。

今夏から高校生を含む18歳以上に選挙権が与えられることを踏まえ、同校が総合学習として実施。生徒たちは、講師の市選挙管理委員会職員から、選挙権の歴史や投票の意義などを学んだほか、3人の候補者の公約を比べ投票する模擬投票を体験しました。

吉田清流君は「選挙があった際は、主権者としての自覚を持って、投票に臨みたい」と話していました。



実際の選挙で使われる投票箱に、模擬投票する生徒たち

人生の節目迎え笑顔 第5回 成人を祝う集い

障がいのある子どもたちの保護者で組織する花巻市手をつなぐ育成会の「第5回成人を祝う集い」が1月31日、ホテルグランシエール花巻で開催されました。

隔年で開催されている同集いは、平成6年4月2日から平成8年4月1日まで生れた3人が出席。祝い酒としてワインが振る舞われたほか、それぞれの名前が書かれた色紙に手形を押し、成長の証を残しました。

新成人の皆さんは、家族や関係者などからの祝福を受け、晴れやかな笑顔を見せていました。



杯にワインが注がれ新たな門出を祝いました

賢治ゆかりの地

賢治ゆかりの地
花巻大三角路・同心町

第46回

賢治の生家のある豊沢町通りは当時国道でした。賢治は豊沢町通りから豊沢橋を渡った先にある国道と奥州街道に分かれるY字路を「花巻大三角路」と名付けていました。



賢治が「花巻大三角路」「同心町」と呼んでいた、現在の桜町付近

家の別宅に移し、賢治自身もそこで暮らしていたころのものでした。

また、奥州街道の要所であった桜町二丁目は向小路と呼ばれ、藩政時代は街道の両側にそれぞれ十数軒の同心(下級武士)の住居が並んでいました。現在、残存している2軒が市指定文化財として桜町四丁目に移築・復元されています。

賢治はこの小路をひそかに「同心町」と呼び、桜町で独居自炊の農耕生活を送っていたころ、自ら雪菜とヒヤシンスを積んだりヤカーを引き向小路を歩く様子を、詩「同心町のよあけがた」に詠んでいます。

※電線と電柱との間にある絶縁器具

この詩は大正11(1922)年の作品で、妹のトシを療養のため現在の桜町にあった宮沢

【問い合わせ】
本庁賢治まちづくり課
(☎24・2111内線3665)

わたしたちの地域づくり

10年を迎える地域づくり

早いもので、新堀地区コミュニティ会議が発足してから10年目を迎えます。発足当時は旧時代から行ってきた活動の組織や拠点があるとはいえ、市内27地区が足並みをそろえてそれぞれの特性を生かした地域づくりに取り組むという事は、当地区としても試行錯誤の船出でした。新堀の象徴でもあり憩いの森でもある戸塚森、そして北上川の東部に開けた肥沃な水田地帯を有する当地区を将来どのように創っていくか。

ことしは、この10年の歩みを振り返り、創立10周年記念事業を実施します。記念式典や記念誌の発行、「米田くん」の歌や踊りの制作披露、戸塚森の記念植樹祭など、楽しくもあり、忙しい年になるかもしれません。

戸塚森にソメイヨシノやしだれ桜、山桜が咲き乱れ、パンガロー付近には紫のかれんなカタクリの花が咲き誇る陽春の時節が待ち遠しいわが新堀地区の向春の日々です。



▶戸塚森



▲カタクリ。4月下旬ごろに見頃を迎えます

【問い合わせ】
新堀地区コミュニティ会議
(☎45・3730)